

時には立ち止まって 考えることも必要ですよ



アグリサイエンスバレー構想の進捗状況と今後の展開について問う



議員

この事業で一番の問題は、地権者の同意が取れるかということである。地権者の中には、説明会に一度も行ったことがなく、ただ一度委任状を提出しただけで賛成していることになるのかと不安に思っている方がいる。

産業拠点整備課長

賛同については、個別のヒアリングにより御意向を確認させていただいている。

議員

地権者の同意があつて初めて使ってくださいという附帯意見をつけたにもかかわらず、推進

市長

協議会に予算を使っているが、100%の同意を得なければ何もできないとなると、どんな事業もできない。

議員

この事業は、土地の交換が必要で、皆さんの同意がなければできない難しい事業である。土地改良事業に対しては3億4000万円ほど事業費が不足しているが、誰が負担するのか。

都市建設部長

当初30センチの盛土を行う予定だったが、乾田化という方法があり、不足分は何とかできるのではないかと回答を得ている。5億円を超えた部分は戸田建設の負担になるかと思う。

議員

乾田化はそんなに安くできるものではない。一番の問題は、あの地区は地盤が非常に弱い地区だということである。

産業拠点整備課長

県西農林事務所から助言をいただき、江連八間土地改良区の見解は乾田化は可能とのことである。

議員

私は、優良農地をつぶして畑をつくるというのは反対である。進んでいくばかりが能ではない。



市民に等しく公平な公共交通を実現する

公共交通の公平性について

議員

常総市内の公共交通は市民に等しく公平性があると思うか。

市長

現在の公共交通機関について公平性があると思う。

議員

公共交通の公平性と遠距離通学補助の整合性について問う。

教育部長

遠距離通学費の補助については、現在公共交通が整備されている三妻小学校区だけの補助では不公平だという意見があり、執行を停止している。

議員

公共交通に公平性がないから遠距離通学の補助がだめになったのである。市内にいる一人暮らしの高齢者1793名をデマンド交通でカバーするのは無理だと思う。公平性をもっと高めるために、弱者を救済するために循環バスを通すべきだと思う。

市長

歩くのも困難な方は循環バスでは救えない。デマンド交通も必要である。

議員

福島県の自治体が民間会社と行った社会実験では、バスの運行開始時間を朝の8時半から7時にしたところ、通勤通学に便利ということ、ほとんど利用者がふえ、いまは民間単独でやっているという例もある。

市長

循環バスよりも高齢者のニーズにあつたデマンド交通を導入したという経過もある。

議員

私は高齢者だけではなく全体のことを言っている。やり方次第で循環バスもできるのだから、やっとならいいのではないか。

市長

しっかりと受け止めて検討していきたい。

遠藤 章江 議員

小林 剛 議員

